

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名 成田市立遠山中学校

1 学校教育目標

『人間性豊かで、自主共同の心を大切にする生徒の育成』

2 本年度の重点化された具体的な目標

- (1)安定した学校生活の基盤を成す組織的な生徒指導の推進
- (2)基礎学力の定着を図る指導方法の研鑽と教科指導の魅力を伝え、学ぶ意欲を引き出す授業づくりの推進
- (3)自らの健康を律し、自他の生命の尊重と前向きに生きる姿勢を培う教育活動の推進
- (4)日常活動、学校行事に求めるものを明確にし、生徒の知と心を鍛える新時代に向けた教育活動の推進
- (5)情報発信と連携をキーワードとした保護者・地域・学区小学校・関係機関との連携・協力の推進

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程 学習指導	先生達は教え方に様々な工夫をしていて、授業がわかりやすい。	93%の生徒が「わかりやすい」と回答している。	A	・協働的な学びと少人数指導を推進する。 ・研究授業や相互授業参観を積極的に行う。
	学校は、授業や学校行事の参観、保護者面談などの機会を適切に設けている。	89%の保護者が「設けている」と回答している。	A	
生徒指導	先生達は生徒の意見をよく聞いてくれる。	89%の生徒が「聞いてくれる」と回答している。	A	・今後も傾聴の姿勢を大切にする。 ・保護者からの相談にはスピード感をもってチーム学校で対応する。
	学校(教員)は、保護者からの相談に対して適切に対応している。	73%の保護者が「対応している」と回答している。	B	
特別支援教育	学校は、生徒の実態やニーズに基づいた特別支援教育の充実に努めている。	63%の保護者が「努めている」と回答している。	B	・インクルーシブ教育や合理的配慮などの研修を行い、職員間で共通理解を図り、組織的な取り組みが行える。
組織運営	校務分掌を理解し、他の職員と協力して責任をもって職務にあたっている。	100%の教職員が「あたっている」と回答している。	A	・一人一人の職員を適材適所に配置し、持ち味を十分に発揮させる。
研 修	全職員の資質・能力の向上につながる研修が行われている。	86%の職員が「行われている」と回答している。	A	・現代的な教育課題や学校の現状を勘案しながら、適切な研修計画を立案する。 ・若年層教員の育成
保護者、地域住民等との連携	学校は、登下校時を含め、生徒が健康・安全に学校生活が送れるよう配慮をしている。	85%の保護者が「配慮をしている」と回答している。	A	・危険箇所での交通安全指導を定期的に行う。

4 自己評価の結果の分析

学習指導については、生徒のアンケートによるとほとんどの生徒が「授業がわかりやすい」と回答しているが、保護者からの評価は決して高いとは言えず、数値に大きな差が見られる。やはり定期テストや実力テストの結果を通して、学力の伸びが見て取れないと、保護者からの高い評価は得られないのではないかとと思われる。

生徒指導については、友人関係のトラブルについて初動が遅れてしまうことや、教職員の言動より保護者から強い抗議を受ける場面があった。また、生徒のためを思っている指導について、その趣旨が保護者に理解されず、不信感を招いたこともあった。生徒指導に際しては、教職員の言動や、スピード感を持って対応し、事象の全体像をしっかりと把握した上で、職員間で役割分担をしっかりと行って組織で対応することが大切であると感じた。

本校は9割以上の生徒が自転車で通学しているが、ルールやマナーの面で地域の方からお叱りを受けることも度々あるので、安全な登下校を進めるべく、更なる啓発に努めたい。